

お菓子の生産・販売・消費・輸出入

1. 国内のお菓子の生産・販売の動向

国内のお菓子の生産量、生産・販売金額は、2004 年を 100 とした指数でみると時期による増減はあるものの、新型コロナ流行前の 2019 年には、生産量は 104.7、金額は 108.3 と、通してみれば微増傾向でした。しかし、コロナによる行動制限の影響を受けた翌 2020 年には生産量は 98.5、金額は 101.9 と大きく減少しています。

2021 年以降は回復傾向がみられ、2022 年の生産金額指数は 108.6 と 2019 年の水準を回復したものの、生産量指数は 101.8、と依然として 2019 年の水準を下回っています。（「[資料－1 菓子生産数量・生産金額及び小売金額の推移](#)」（全日本菓子協会の公表資料に基づき作成、以下同様）参照）

また、コロナの影響を菓子の種類ごとに 2019 年から 2020 年の生産量指数の変動でみると、飴菓子は▲20.2、チューインガムは▲9.3、せんべいは▲25.2、和生菓子は▲13.3、洋生菓子は▲8.2 ポイントと平均（▲6.3）を上回る減少となっているのに対し、チョコレートは▲2.4、米菓は▲1.1、油菓子は▲2.0、その他菓子は▲2.1 ポイントの小幅減となっています。一方で、ビスケットは 0.5、スナック菓子は 2.2 ポイントとそれぞれ増加しています。

これは、政府によるコロナ対策としての移動制限、テレワーク、催事人数の制限要請等が影響したものと考えられます。

2. お菓子の輸出入

(1)お菓子の輸入数量・金額は、2004 年を 100 とした指数でみると、新型コロナ流行前の 2019 年には、輸入量は 105.7 と微増なのに対し、金額は 138.6 と大きく増加しています。コロナの影響については、2020 年には輸入数量、金額ともわずかに減少していますが、2022 年には数量、金額 2019 年を大きく上回っています。（「[資料－2 菓子輸入通関実績推移表](#)」参照）

(2)お菓子の輸出数量・金額は、2004 年を 100 とした指数でみると一貫して増加傾向にあり、新型コロナ流行前の 2019 年には、輸出数量は 162.6、同金額は 262.9 と大きく増加しています。これは政府による農林水産物の輸出振興策と菓子業界・企業の輸出への取り組みの成果と考えられます。また、インバウンドの増加により日本のお菓子の価値が海外の消費者に広く知られるようになったことも大きく寄与したものと考えられます。新型コロナの影響を受け、2020 年には前年対比で輸出数量指数は▲12.0 ポイント、金額指数は▲21.3 ポイントの減少となっていますが、2022 年にはともに 2019 年を大きく上回る水準に回復し、増加傾向を維持しています。（「[資料－3 菓子輸出通関実績推移表](#)」参照）

(詳細なデータ)

詳細なデータをご覧になりたい方は、以下のサイトをご覧ください。

1 お菓子全体を網羅したデータ（生産・販売・消費、輸出入）を紹介しているサイト（全日本菓子協会（ANKA）ホームページ）

[菓子関係データ | 全日本菓子協会（ANKA） \(anka-kashi.com\)](http://anka-kashi.com)

2 チョコレートに関する国内外を網羅したデータを紹介しているサイト

① [日本チョコレート工業協同組合 | チョコレートについて | \(chocolate.or.jp\)](http://chocolate.or.jp)

② [日本チョコレート・ココア協会 \(chocolate-cocoa.com\)](http://chocolate-cocoa.com)

3 チューインガムに関するデータを紹介しているサイト

[日本チューインガム協会 \(chewing-gum.jp\)](http://chewing-gum.jp)

4 スナック・シリアルに関するデータを紹介しているサイト

日本スナック・シリアル協会 <http://jasca.jp/data/index.php>